

地域における福祉の推進 [高年]

学習療法効果の普及・啓発を目的にした家族交流会や講演会の開催

平成18年より『学習療法』を導入し、利用者の認知症の改善を促してきた。学習療法は、利用者のみならず地域住民にも良い効果を及ぼし、スマートエイジング（「加齢と共に人生が豊かになることを実感し、老若男女問わず世代を超えてお互いを支えあう」との考え方は街作りに貢献できる」との考えのもと、定期的に発表会を実施し、その成果の普及・啓発に努めている。

北海道

社会福祉法人

光寿会

〒086-2104 北海道広尾郡大樹町字大樹10-8

TEL：01558-6-5566 FAX：01558-6-5567

◇法人設立年

平成9年

◇法人実施事業

- ①経営施設（事業）数：6 施設（事業）
- ②経営施設・事業の種類：
介護老人保健施設…2、訪問介護…1、通所
リハビリテーション…2、居宅介護支援…1

◇法人の理念・経営方針

理念「ひとりひとりに光を当てる」
信条「あなたのことをもっと教えてください」
「最後まであなたらしい生き方を支援していきます」

◇取り組みを実施している施設の概要

【施設名】

ケアステーションひかり

【施設種別及び利用定員】

介護老人保健施設 100名

◇活動内容

- 活動開始年
平成18年2月
- 活動の対象者
地域住民、医療福祉関係者、リハビリ専門学校
及び看護・介護専門学校の学生、道及び市町村
高齢者介護担当者
- 活動の頻度・時間
・家族交流会…平成21年2月、11月
・講演会…平成22年5月

◇活動実施の背景、実施にいたった理由

当法人では平成18年2月に、道内の他の施設に先駆け「学習療法」を導入し、認知症が改善した感動体験を数多く経験してきた。学習療法を実施する中での変化は、利用者のみならず、利用者の家族や職員にまで良い影響を及ぼしている。当法人ではこのような取り組みを通して「学習療法とスマートエイジング」を推進している。スマートエイジングとは、「加齢と共に人生が豊かになることを実感し、老若男女問わず世代を超えてお互いを支えあうこと」とされている。学習療法の成果は、本人のみならずその家族や地域社会にも波及している。スマートエイジングも街作りに貢献するのではないかと考え、成果を広く発信し、その普及・啓発に取り組むこととなった。

◇実施内容

平成21年2月と11月には、その成果を報告するために、家族交流会を開催した。参加者に対し、職員が学習療法を通して得られた改善事例を報告した。平成22年5月に開催された家族交流会では、変化の見られた利用者の家族に発表いただいた。また、学習療法シンポジウム（東京）にて、当法人理事長が医師の立場から見た学習療法の成功事例を発表するなど、学習療法をツールとした地域・社会貢献に努めている。7月には、道内47か所の学習療法を導入実践している施設の要となるべく、当法人が発起人となり「北海道学習療法研究会」を立ち上げた。北海道の学習療法の波頭に立ち、「学習療法」の普及・啓発に努めるとともに、各施設の情報をかわら版にして発行した。

そして、より多くの方々に興味・関心を持っていただくために、学習療法の生みの親である東北大学教授の川島隆太氏の講演会を企画した。開催に際しては、講演実行委員会を立ち上げ、当施設的全職員が参加し、2週間に1回程度の頻度で集まって準備を進めた。ポスターやパンフレットを作成し、地域住民や医療福祉関係者、学生、くもん学習療法導入施設等に案内を出し、参加者を募った。各種団体に協賛・後

援を依頼し、多くの協力をいただいた。

当日は約1,000名近くの参加者が集まった。川島教授の講演では、脳科学や心理学の観点より、今まで困難とされていた脳機能の回復についてのデータが示された。認知症の予防として取り入れることにより、介護費用の軽減にもつなげられるとの内容であり、参加者の興味・関心を強く引くものであった。

◇活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

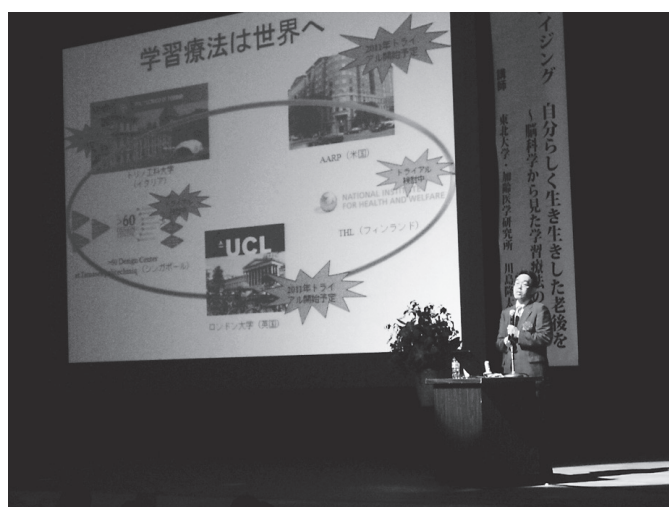
講演会に参加された方の職種や年齢層はさまざまであり、学習療法への強い関心がうかがえた。参加者アンケートでは、「介護現場での学習療法の成果を見せていただき、年齢を重ねる事への不安が吹き飛びました。」「介護の明るいビジョンが見えたと思います。」等の感想をいただいている。その他、「実際に学習療法を見てみたい。導入してみたい。」という声も聞かれた。講演会以降、学習療法の導入を検討している近隣町村のクリニックやグループホーム、市町村からの施設見学が相次いでおり、家族交流会での発表から始まった「学習療法とスマートエイジング」の普及・啓発の取り組みは、形になりつつある。

また、職員は大樹町という過疎の町から、新しいヒューマン・ケアイノベーションのウェーブを湧き起こすことができるという自信・誇り・使命感を体感したことにより、敬遠されがちな介護現場の職業感が大きく革新できたと確信している。

◇今後の展開

家族交流会の開催から講演会開催までの取り組みにより、多くの方がたの学習療法への興味・関心が高まった。また、法人として十勝支庁のみならず、道内及び国内の人びとにも成果を発信し役立てていただくため、今後はより学習療法の基礎・基本に忠実に、学習療法の先駆者としても恥じないような自覚がより一層求められてくる。また、今後は学習療法や講演会をツールとして、当法人の取り組みを外部へアピールしていくよう努める必要がある。

このような当法人の活動に対して、致知出版社より月刊「致口」11月号の特集「人間を磨く」の中で当法人理事長との対談が企画されたことから、十勝支庁・北海道のみならず、全国の介護保険施設や行政の関係者からも注目を浴びる時代と



なった。

今後、当法人は「共創」をビジョンとして学習療法を共通のツールとして、「スマートエイジングの街創り」に貢献できるように学習療法の効果を発信し続けたい。パイオニアとしての使命・責任に基づき、活動が続ける所存である。

◇主な経費や財源及び人員等

※年間あたり

主な経費	経費概算額	主な財源	財源概算額
講師依頼に係る費用	202,831円	各種団体からの協賛金	1,321,681円
会場に係る費用	195,593円	その他	1,021円
広報費	490,350円		
その他	433,928円		
<合計>	1,322,702円	<合計>	1,322,702円

- ・ 取り組みにかかわった職員数 約50名
(職種等：リハビリスタッフ、事務員、介護職員、看護職員、管理栄養士)